

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (22) 5062
99.12.15 No. 5062

組織拡大を！ 動労総連合14回 定期全国大会開催

12月4・5日、船員宿泊所・なのはな荘において、動労総連合第14回定期全国大会が開催された。

大会は平岡副委員長の挨拶で開会。中央本部を代表して中野委員長が力強い提起を受けた後、経過報告・方針案等の提起・質疑討論に入った。

質疑では、▼JR総連解体・組織拡大の闘いの重要性、組織拡大の取り組みをいかにすすめるか、▼地に落ちた運転保安の危機の実態、それとにかに闘うか、▼JR貨物の賃金抑制攻撃や基地統廃合攻撃との闘い、▼強制配転や不当労働行為との闘い、▼賃金・昇進制度の改悪攻撃との闘い、▼共闘関係や新しい潮流運動の前進など、全国各地での闘いの報告や経験交流・活発な議論が行われ、方針を満場一致で採択。大会は新たな飛躍に向けて大成功のうちに終了した。

中央執行委員長挨拶

一九九九年は、戦後の日本の歴史にとって大きなターニング

ポイントとなった。われわれは20世紀最後の年、二〇〇〇年にならぬ闘いを展開し決定するべきでないかを討議し決定するのが本大会の重要な課題だ。大失業と戦争の時代が到来し、これまでの社会の仕組みが歴史の進歩にとって障害物になっていく闘う労働組合の全国ネットワーク運動が多くの労働者の心をつかみはじめ、都労連闘争など反撃への闘いも始まっている。労働者の団結をキーワードに、体制の側が労働者を獲得するの、階級的労働運動の側が獲得するのの壮大な組織戦に立ちあがろう。国鉄闘争はその力ぎを握っている。国鉄闘争では、末期的な症状を呈している革マル結託体制を打倒し、組織の強化・拡大を実現することが何よりも重要なテーマだ。20世紀に起きたことは20世紀中に決着をつける決意で闘おう。

追悼



12月9日、千葉運転区支部副支部長 岩瀬孝一さんが急逝されました。享年50歳でした。岩瀬さんは、動労千葉にとってかけがえのない同志でした。この12月1日にも、支部定期大会で副支部長に再任されたばかりで、そのときも「言い忘れちゃったことがあってよ、物販オルグには年一回でいいから支部全員が参加しようって言い たかったんだよ」と話していました。

岩瀬さんがいつも訴えていたのは、労働者としての誇りを持ちつつけることの大切さであり、仲間を裏切らないことでした。いつも闘いの中心にいた貴方を失うことは、返すがえすも無念でなりません。しかし、在りし日の姿はいつまでも私たちが叱咤激励しつつ、心のなかに生きつづることでしょう。私たちはこれからもより一層団結を固め岩瀬さんの分まで頑張りぬくことを誓い、衷心からご冥福をお祈り致します。

出向協懇談会を開催

出向者協議会の一九九九年度懇談会は、12月10日、動力車会館で19名が集まり開催されました。

懇談会は内藤事務局長の司会で進められ、冒頭中村会長から、「四月以降出向者が六名増えました。各自職場で奮闘していると思います。今後年金制度の改悪やJRの出向制度変更に伴い、高齢者をとりまく環境は益々厳しいものがあります。動労千葉魂で団結を固め、これからは体

に気をつけて頑張りましょう。今夕は時間の許す限り和気あいあいとやりましょう」と挨拶がありました。懇談会はその後、本部布施副委員長より、「JRの破産II第二の分割・民営化攻撃が始まっている。13日には臨時大会を開催し、新会館建設・財産保全や組織の拡大強化について討議を行う。ぜひ多くの参加を」と報告を受け、千葉転支部井口さんの乾杯の音頭で懇談会に入りました。



第14回定期全国大会

《一九九九年度新役員》

執行委員長	副委員長	書記長	執行委員	会計監査
中野 洋	国分 勝之	平岡 誠	和田山 繁	高石 正博
高野 安雄	水戸 西	千葉 西	小川 正哉	岡田 広弘
川崎 昌浩	千葉 千	千葉 千	田中 康宏	水戸 高崎

中野委員長、君塚副委員長をはじめ本部役員も参加し、和気あいあいのなかで進行し終電の時間をもって終了し、「次回は四月の総会に結集しよう」のことばで散会しました。

99年度出向者協議会懇談会

